

銀行名	東邦銀行
タイトル	東日本大震災からの復興支援
取組み内容	<p>「ふるさと支援 在京福島県経済人の集い」の開催</p> <p>【概要】</p> <p>1 .平成 27 年 2 月 3 日、東京・帝国ホテルで当行主催による「ふるさと支援 福島県経済人の集い」を開催した。</p> <p>2 .本集いは、東日本大震災等の影響で厳しい状況にある福島県の風評払拭や産業振興、地域活性化に向けた支援の一環として当行が企画・運営した。</p> <p>3 .首都圏で活躍する福島県ゆかりの在京経済人と福島県知事、県内各市町村長など総勢 200 名が一堂に介し、在京経済人と県内自治体等との交流による「人材マッチング」を通じ、本県への企業立地や地元雇用など新たな活力の創出を目的としたもので、地方銀行では初の取組みである。</p> <p>「食関連産業」商談会・物産イベントの開催</p> <p>東日本大震災等の影響で風評被害にある本県の魅力ある食材の消費拡大に向けて商談会や物産イベント等を県内外で開催している。</p> <p>【概要】</p> <p>1 .食の商談会</p> <p>( 1 )「ふくしまフードフェア」の開催</p> <p>福島県及び J A グループとの連携事業</p> <p>開催日：平成 26 年 9 月 18 日</p> <p>場 所：ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）</p> <p>開催形態：ブース展示、個別商談会</p> <p>出展者数：165 社</p> <p>来場者数：約 1,000 人</p> <p>( 2 )「地方銀行フードセレクション」の共催</p> <p>開催日：平成 26 年 11 月 10 日～12 日</p> <p>場 所：幕張メッセ（千葉県美浜区）</p> <p>開催形態：ブース展示</p> <p>出展者数：17 社（当行お取引先）</p> <p>来場者数：約 10,000 人</p> <p>2 .物産イベント</p> <p>( 1 )「こらんしょ福島 魅力満載フェア」</p> <p>開催日：平成 26 年 4 月 2 日～9 日</p> <p>場 所：J R 仙台駅（宮城県仙台市）</p> <p>出展者数：18 社</p> <p>来場者数：約 12,000 人</p> <p>( 2 )「ふくしま地酒フェア～旨し酒 ふくしま酒まつり」の開催</p> <p>開催日：平成 26 年 6 月 5 日～8 日</p> <p>場 所：丸ビル（東京都千代田区）</p> <p>出展者数：県内 22 蔵元</p> <p>来場者数：約 3,300 人</p>

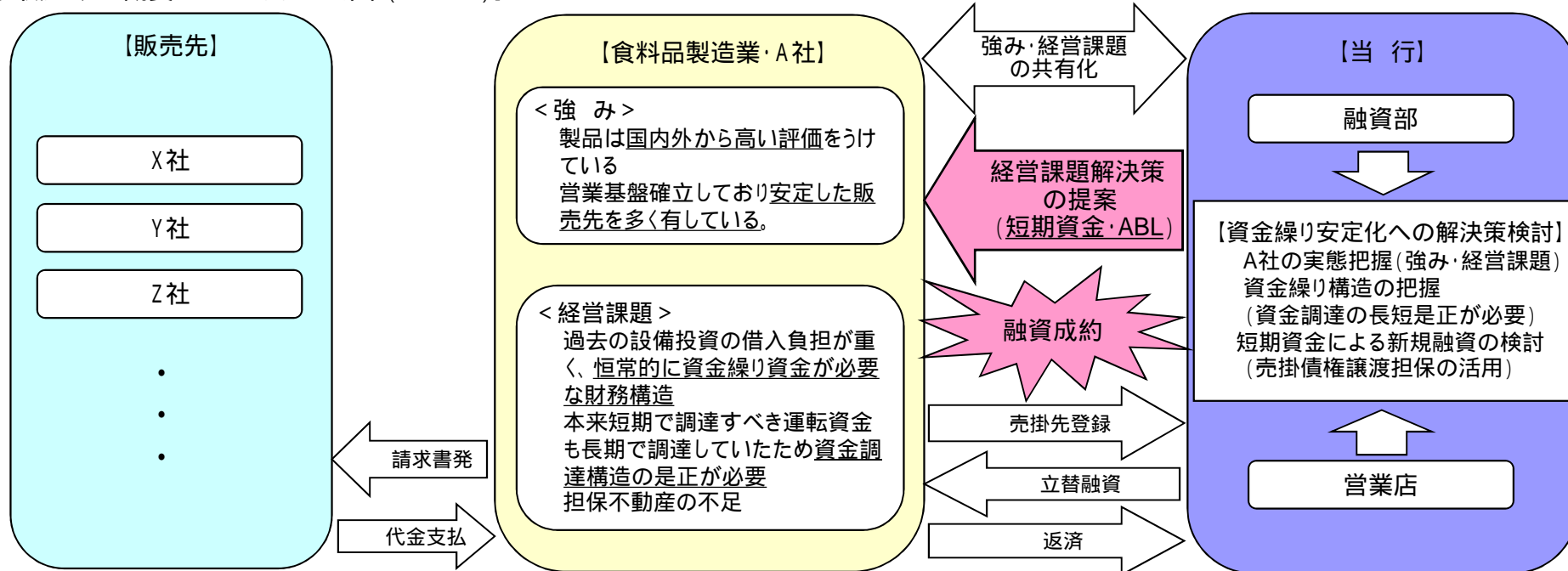
銀行名	東邦銀行
タイトル	ものづくり産業へ取組み
取組み内容	<p>経済産業省の補助金を活用したビジネスマッチング事業の展開      経済産業省の「地域経済産業活性化対策費補助金」を活用し、外部機関と連携した県内ものづくり事業者の販路開拓支援を実施。</p> <p><b>【概要】</b>      「東邦・ものづくりビジネスマッチング」      内容：参加企業の企業評価書作成と発注企業とのマッチング      参加企業 10社      発注企業とのマッチング件数 37件</p> <p>「東邦ものづくりセミナー」の開催  <b>【概要】</b>      開催：7月11日 参加者120名      目的：ものづくり企業の販路開拓支援      地元企業と国立研究開発法人産業技術総合研究所のマッチング促進      内容：ものづくり企業の販路開拓のポイントについての講演      産総研の研究内容説明      産総研 福島再生可能エネルギー研究所の施設見学</p> <p>国立研究開発法人産業技術総合研究所「福島再生可能エネルギー研究所」との連携事業「アクションJAT」の実施  <b>【概要】</b>      目的：福島県が産業集積の促進を図っている「再生可能エネルギー関連分野」への参入・技術開発支援      内容：産総研 福島再生可能エネルギー研究所の研究内容をベースに、産総研のパートナー企業を募集（常陽銀行との共催）      産総研からの説明会（平成26年11月 /参加企業146社）      企業からの産総研へのプレゼン会（平成27年2月 /参加企業47社）      連携企業として3社選定（平成27年5月）</p>

銀行名	東邦銀行
タイトル	売掛債権譲渡担保（ABL）を活用した運転資金対応
取組み内容	<p>1．当該取組に至った経緯</p> <p>（1）A社は、福島県を代表する清酒メーカーであり、震災の影響を受けながらも積極的な営業活動を展開している企業。</p> <p>（2）A社は過去の設備投資（工場新設）の借入負担重く、恒常的に資金繰り資金が必要な財務構造。経常運転資金も含め長期で調達してきたため、調達構造の是正が必要であった。</p> <p>（3）A社の業況、財務内容等を鑑み、本支店による協議の結果、売掛債権譲渡担保融資（ABL）を活用した当座貸越による長短是正を提案した。</p> <p>2．当該取組みの具体的内容</p> <p><b>【提案内容】</b></p> <p>貸出種類：当座貸越 金額：100百万円</p> <p>金利：2.000%（短期プライムレート連動）</p> <p>使 途：運転資金 担保：売掛債権譲渡担保</p> <p>（1）A社は収益力弱く純資産も薄い財務体質にあり、担保となる不動産もない状況から資金対応方法の検討が必要であった。</p> <p>（2）A社は安定した販売先を有していたことから、従来調達に未活用であった売掛債権譲渡担保融資に着目。</p> <p>（3）一般的な売掛債権譲渡担保は、対象売掛債権毎の個別評価のため売上高上位3先程度となり調達金額も限定されるが、本件では業種特性を勘案し、集合債権として将来発生する売掛債権を一括で評価する売掛金モニタリングサービスを活用した。</p> <p>3．当該取組みの成果</p> <p>（1）新たな資金調達手段の活用により資金調達の間口を広げるとともに、A社の調達構造の是正につながった。</p> <p>（2）当社の事業収益資産を評価、担保取得したことにより、当社の商流等、企業の実態を把握することが可能となり、お客さまとの信頼関係の構築につながった。</p>

・ 経営支援先に対し売掛債権譲渡担保（ABL）を活用した融資取組み事例

過去の設備投資や収支低調により借入返済負担が重く恒常的に資金繰り資金が必要なお客様に対し、売掛債権譲渡担保（ABL）を活用した当座貸越の融資提案・成約により資金繰り安定化が図られた事例

【取組みの概要とABLスキーム図（～）】



< 売掛債権譲渡担保（ABL）のポイント >

一般的な売掛債権譲渡担保は、販売先を個別評価することから売上高上位3先程度となり調達金額も限定されるが、A社の業種特性を勘案し集合債権として将来発生する売掛債権を一括で評価するスキームを活用した。

モニタリング方法についても毎月売掛金の入金通帳と翌月入金予定資料をABL評価会社へ送付するのみでA社の事務負担軽減

< 売掛債権譲渡担保（ABL）取組みによる成果 >

新たな資金調達手段の活用により資金調達の間口を広げるとともに、短期資金調達によりA社の調達構造の是正につながった。

A社の事業収益資産を評価、担保取得したことにより、A社の商流等、企業の実態を把握することが可能となりお客さまとの更なる信頼関係構築につながった。